

【第三種郵便物認可】

我が社の ストラテジー



警備用品のトライ・ユー（札幌市）は3Dプリンターを活用する製品開発が持ち味だ。部品や試作品をその日のうちに作るスピードが売りで、本州の企業からも試作の注文が舞い込むまでになった。車止めからフェースシールドまで、時代の先を読む開発チームを上杉章社長が引っ張る。

2018年、本州発の警備用品メーカーから独立した上杉社長が問題意識を持ったのは、警備用品に寒冷地仕様がないことだった。危険と隣り合わせの寒冷地で働く人に必要な用具が行き届いていない。生まれも育ちも北海道で「寒冷地を知っている自分が開発すれば良い製品ができる」とし

トライ・ユー

3D技術で対コロナ用品も



3Dプリンターを使った物作りが評判だ

て寒冷地対応に躍起になって取り組んだ。用品メーカーとして安定して取り組んだ。

19年に商品化した自動車テロなどの暴走車両の動きを止める車止め「ヘラクレス」がヒット。北海道の初夏の風物詩「YOSAKOIソーラン祭り」や六本木の盆祭りなどで使用された。従来の対テロ車止めより安価で設置が簡単なだけでなく、寒冷地対応も万全だ。OSAKOIソーラン祭りや六本木の盆祭りなどで使用された。従来の対テロ車止めより安価で設置が簡単なだけでなく、寒冷地対応も万全だ。OSAKOIソーラン祭りや六本木の盆祭りなどで使用された。従来の対テロ車止めより安価で設置が簡単なだけでなく、寒冷地対応も万全だ。

20年7月期の警備事業の売上高は約7000万円で、数少ない地場の警備

時代先読み、迅速に仕上げ

トなら、本州製の製品は気温が下がると反射テープが割れたり、電線が雪でショートして発光しなくなったりといったトラブルが頻発していた。同社のLEDベストは反射する部分をテープではなく布製に替え、気温がマイナスになっても耐えられるのが特徴だ。

LED部分も取り外しできるようにし、電池を入れて雪にも耐えられる仕様にした。LEDライトも主流だった赤色から緑色に変更し、激しい雪の中でも視認性を高く保てるように改良した。

LEDライトの部分はベスト以外にも頭部や腕につけられる。ただ工事や交通整理といった用途ごとにヘルメットや帽子

キーワード

▼3Dプリンター 3次元データを元に金属や樹脂などの素材を積み重ねて立体物を製造する機械。デザインの自由度が高く、複雑な形状を作ることができる。プレス金型が不要なため、中小企業が多品種を少量生産するのに適している。従来の製品は形状が異なるため、取り付け部分を3Dプリンターで作っている。新型コロナウィルスの影響でイベント中止が相次ぎ、札幌で開催される予定だったマラソン・競歩競技も1年延期となった。車止めなどの需要は振るわない。そこで始めたのがフェースシールドやマスクの製造だ。フェースシールドも発注者の要望に合わせ、接続部品を3Dプリンターで製造する。企業からの注文は殺到している。「困ったニーズが出てくれば、それに合った対策商品を企画したい」と上杉社長。一歩ずつ進めてきた歩が地に根を張り、多様な花を咲かせ始めた。（荒川信一）

北海道

